

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 篠崎 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

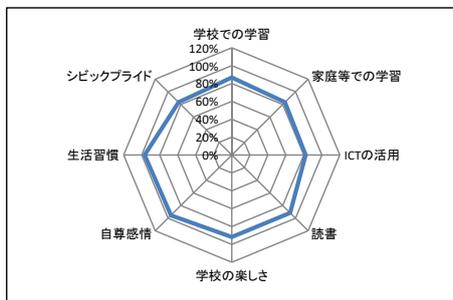
- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	国語力は総じて全国水準である。文章内容の把握や要点の整理が求められる選択式問題で力を発揮している。一方で、語彙の運用や表現の解釈、記述・表現形式の問題では課題が見られ、思考と表現を結びつける場面での弱さが目立つ。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	人物像に関する記述内容を読み取り、性格や特徴を言語化する問題において、平均を上回っている。文章内容の理解や根拠の把握が正確である点が評価できる。	
	努力が必要な問題	文章の構造と筆者の意図を結び付ける力に課題が見られる。段落関係図や要点整理など、文章を整理して読むための工夫を身に付ける必要がある。	

数学	全体的な傾向や特徴など	「図形」「関数」「データの活用」領域における知識・技能を問う問題では全国平均を上回っている。一方で「数と式」「図形」領域における思考・判断・表現を問う問題では全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「データの活用」領域の相対度数の意味を理解しているかどうかみる問題と、「数と式」領域の目的に応じて式を変形したり意味を読み取ったりして説明する問題で全国平均を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	「数と式」領域の素数の意味を理解しているかどうかをみる問題に課題が見られた。	

理科	全体的な傾向や特徴など	実験や観察結果を通じて身につけた知識や科学的な思考力を、日常生活につなげて考えることができる生徒が多く見られた。科学的な事象に対して仮説を立てて検証する設問を苦手とする生徒が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	動画をもとに動物の呼吸方法の違いを分類する設問では、全国平均を上回る正答率を得られた。気体や気圧などに関する設問では、全国平均とほぼ同じ正答率を得られた。	
	努力が必要な問題	化学分野に関する設問での正答率が低く、本校生徒が苦手とする傾向がみられた。	

#### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析	
・	「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」等、社会性が問われる質問内容に対して肯定的に回答している割合が全国平均を大きく下回っている。学校行事や生徒会活動に当事者意識をもって取り組み、多くの体験や経験を通して、社会性を身に付けていく必要がある。
・	主体的・対話的で深い学びを多く取り入れている教科においては肯定的な回答の割合が多かった。話し合い活動や学び合い、探究的な学習を意図的に取り入れていく必要がある。

#### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

##### ① 教科に関する取組

学校全体で取り組んでいる、協同学習や授業ユニバーサルデザイン、学びのプラン（単元計画）を再度共通理解し、徹底して実践する。

##### ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭での基本的な生活習慣は安定している。休日の学習時間が全国平均を大きく下回るため、興味・関心をもって自ら進んで取り組めるような学習課題の設定を各教科で行う。